

## 本講義資料のご利用にあたって

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。

著作権が東京大学の教員等に帰属する著作物については、非営利かつ教育的な目的に限り再利用することができます。

ご利用にあたっては、以下のクレジットを明記してください。

クレジット：

UTokyo Online Education 学術フロンティア講義 2022 村 和明



## 日本史学とジェンダー —対象として、方法として

村和明

(大学院人文社会系研究科/文学部・日本史学研究室)

### ・はじめに

・今日の趣旨：2つの事例から、日本史学におけるジェンダーの位置づけ、有効性について

・日本史学とジェンダー史（超・概観）

女性史の伝統と蓄積：1970年代に在野で叢生、'80年代には学会レベル<sup>(1)</sup>

1990年代後半～：ジェンダー概念への着目、2004年ジェンダー史学会

現状：（内容面）学界における認知、裏腹な“隔離”。

（人員面）惨状の中ややマシな部分？

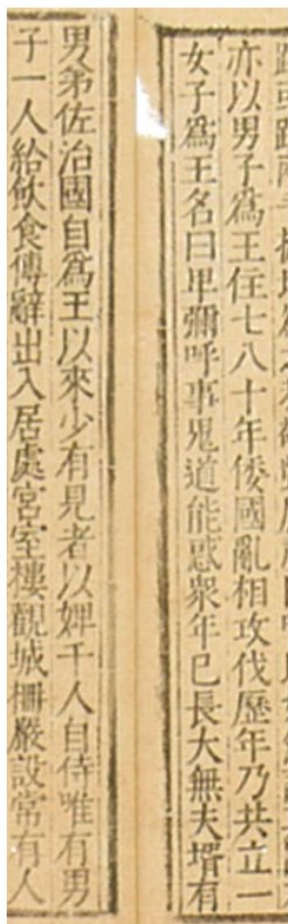
・特別展「性差（ジェンダー）の日本史」@国立歴史民俗博物館2020/10/6～12/6。

2016年より共同研究。ここでの議論が本講義の前提。

(1) 女性史総合研究会編『日本女性史』全5巻、東京大学出版会、1982年。

## ・事例① ヒミコと弟

義江明子『つくられた卑弥呼』筑摩書房（学芸文庫2018年、初出2005年）<sup>(2)</sup>



【史料】『三国志魏書』東夷伝倭人条（魏志倭人伝）高松宮伝来禁裏本

「共立一女子爲王、名曰卑彌呼、事鬼道、能惑衆、年已長大、無夫婿、有男弟、佐治國、」

：「兄弟のうち、女性が祭祀、男性が政治・軍事を担う」？

→「佐治國」のニュアンスをたどるとそうは読めない。近代以降につくられたイメージ。

(2) 詳細な議論については、義江明子『日本古代女帝論』（塙書房、2017年）もあわせて参照されたい。

考古学の成果：古墳時代前期、首長のうち女性は3～5割。4世紀後半以降急減。  
（右は熊本県宇土市向野田古墳）。

課題：女性首長が軍事をも指揮したか？（埋葬武具の評価）

- a) 女性と男性の地位・役割にかんする実態・観念の歴史的変遷の解明：歴史上のジェンダーの変遷を分析する固有領域。“対象としてのジェンダー”。
- b) 研究者がジェンダーの観点を意識することで、多様な分析対象の理解が深化・拡大・精緻化する。対象は何でもよい。“方法としてのジェンダー”。



宇土市役所ホームページ  
“向野田(むこうのだ)古墳”  
<https://www.city.uto.lg.jp/article/view/1102/1807.html>

## ・事例② 三井越後屋と遊郭の提携

村「豪商と遊郭」『歴史民俗博物館研究報告』35、2022年。

近世を代表する巨大商人・三井越後屋と、京都の島原遊郭の茶屋（遊ぶ空間を提供する営業者、遊女・芸者がここにやってくる）の提携関係の発見。

基本的には、店の従業員（手代という）を、茶屋で遊女・芸者と遊ばせる規定。

（右は現存する島原遊郭の大門。三井提携の茶屋は入ってすぐ左にあった。）



上田隼人, CC BY-SA 3.0, via Wikimedia Commons

## ・②一a 関係のあらまし

【史料】三井越後屋京本店から、島原の茶屋大黒屋つね・大和屋次郎助への要求事項（天保13（1842）年、三井文庫蔵「建書覚」、抜粋・現代語訳）

- ・天保改革で従来提携していた祇園の茶屋が潰れたため、新規に島原（幕府公認の遊郭）で提携する茶屋として指名する。
- ・三井家では古来からの定めがある。若い手代が逸脱しようとしたら、三井の担当に届ける。
- ・勤務上の身分というものがあるから、相応に遊ばせる。遊女や芸者に不正な贈り物があれば、茶屋の責任で取り戻す。
- ・遊女・芸者を同伴した外出は不可。
- ・職階が高い手代でも遊女・芸者に馴染みを作ってはならない。
- ・職階により帰店時刻を定める（5段階、最上層は宿泊可）。
- ・手代で不相応な服を着ている者、遊女・芸者を訪問する者、他の茶屋で遊ぶ者がいたら、三井の店に通報すること。茶屋の仲居まで周知すること。

※別紙で、店の手代・休日の一覧を知らせている。

※別に店内の取り決めで、手代が遊ぶ場合に店が一定額を補助することを定める。

…手代が茶屋で遊ぶことを許容し、その管理を茶屋に命じる。逸脱への監視、通報義務。

【史料】経営陣の理念（享保10〔1725〕年ごろ中西宗助「養生式」、同16年「内寄会式」、三井文庫蔵）

（全手代向け）

- ・養生の道は、飲食・色欲を忍ぶのが基本である。
- ・忠孝が人の道である。手代が健康でなく充分勤務できないのは、主人への不忠、親への不孝である。はじめは貧しくとも仕事（「家業」）に励めば立身しない者はいない。
- ・内臓（「五臓」）を大切に。常に保養して、30代までは色欲をよく慎む。遊女、若衆だけでなく自慰も堅く禁止する。特に冬は慎むこと。

（幹部向け）

手代たちは子供のころから長期の住み込みであるので、休日などで外出したさい、祇園などで「軽い茶屋遊び」などもするだろう。これは見ないふりをしてよいが、未熟な者がここから我を忘れて、忠孝をかえりみず、（三井の）家法に背くことがあるから、放置するのは無慈悲である。従って、21、2歳までは茶屋遊びをさせないようにする。習慣づければ、僧尼の不犯・木食・苦行のようにできるはず。親が慈愛の心で立身を望んで奉公させた手代たちが、失敗する契機を防止し、「相続」の基とさせるのは、大いなる慈悲である。

…「禁欲→養生→精勤→立身出世→主人への忠、親への孝」「こうした統制は主人の慈悲」という論理。裏表二重の性・身体管理。

**【史料】統制の実態は？（弘化2〔1845〕年、大黒屋から三井越後屋への詫び証文、三井文庫蔵）**

このたび、お店の仙次郎様が、長い休みで大坂に行かれるさい、「かねて御ひいきの芸者」海老屋のいくという女性と大阪で落ち合う約束をし、こちら（大黒屋）の仲居小徳と同道されたとのこと、たまたま不在で大変驚いた。

…統制は機能していない様子。 ※他にも類似の詫び証文が多数ある。



## ・②一b つながる議論、見えてくる像

ふつうジェンダー史（あるいは女性史）と意識されないような、さまざまな問題がリンクしてくる。国家・社会の全体像をめぐる大きな議論、“面白ネタ”が、相互に接合してくる。

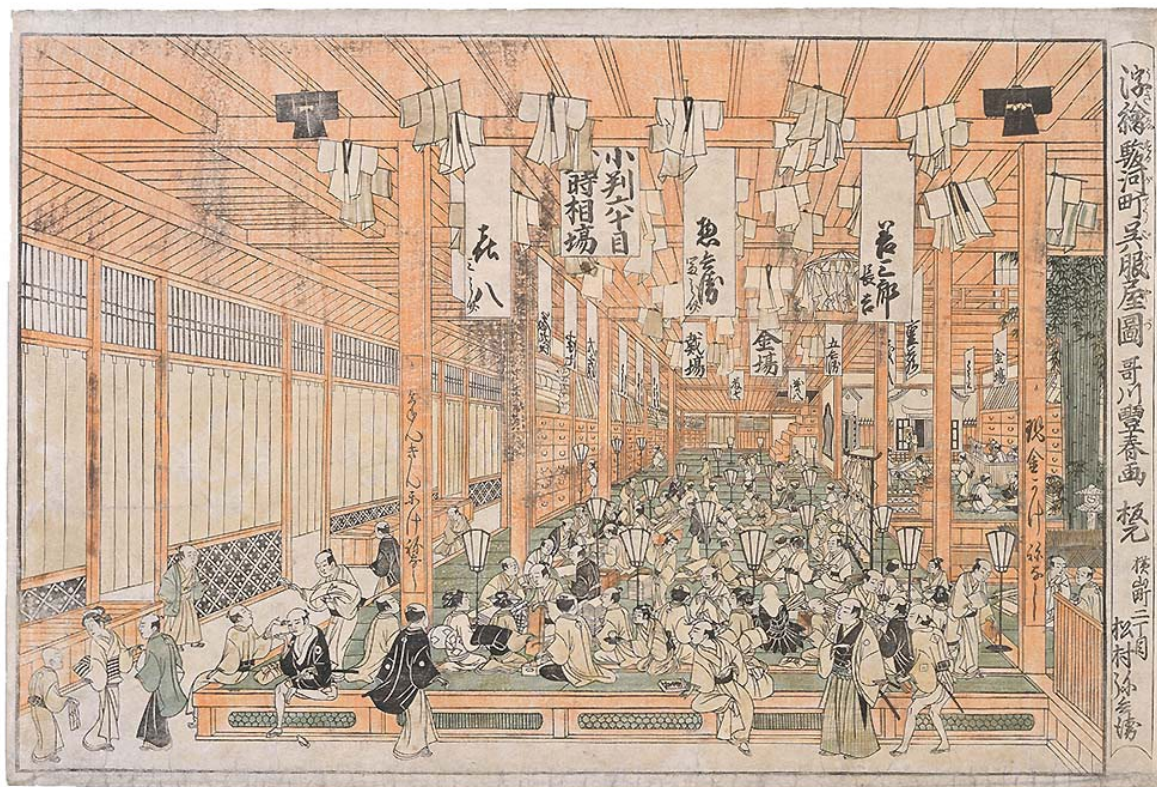
### ● 巨大店舗における手代の不正の常態化構造<sup>(3)</sup>

近世の大商家白木屋の手代（他の商家でも大同小異）は、男性のみで、10歳くらいから店で丁稚奉公し、元服後も長く店で住み込み・独身生活を続ける。商品を横流しし、あるいは店の金を使い込んで、遊女に注ぎ込む不正が日常的に発生していた。

(3) 林玲子『江戸選書8 江戸店犯科帳』吉川弘文館、1982年。

## ● 巨大商家の組織運営、手代管理<sup>(4)</sup>

三井越後屋では、長く勤めた手代が退職する際に、まとまった金（独立の資金）と、商標を与える制度があった。なるべく早く独立しようとする手代を引き留めるべく、退職時の支給額や、勤務中の小遣いの額に傾斜をつける制度設計がなされていた。こうした商家での出世・独立は、次三男などがイエを立てる機会となっていたらしい。



三重県総合博物館  
「浮絵駿河町呉服屋図」  
<https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/da/detail?mgnum=173622>

(4)西坂靖『三井越後屋奉公人の研究』東京大学出版会、2006年。

● イエの一般化、イエ・祖先祭祀の永続をめざす道德の広まり

直系相続の単婚小家族と、その単位での小経営が、近世では一般民衆にまで広く定着した。

長時間労働し節約することでイエ・子孫の繁栄をめざす倫理が定着し、近代の産業化の基礎となった（“通俗道德”<sup>(5)</sup>論、“勤勉革命”論<sup>(6)</sup>。自己責任論へ）。イデオログ・メディアとして、貝原益軒の著作（家祖・家法の重視、養生、勤勉…）の刊行の影響が大きかった<sup>(7)</sup>。

● 戦国～近世初頭の時間観の大転換、“計算できる未来”観<sup>(8)</sup>

戦国までの時間観は、過去が前方にある（見える）もの、未来は背後にある（見えない）ものであった。未来が前方にある（つまり見える、計画が立つ…→上の倫理の前提に）という観念は中近世移行期に出現し、現在に至る。

(5) 安丸良夫『日本の近代化と民衆思想』平凡社、1999（平凡社ライブラリー、初出1974年）。

(6) 速水融『日本における経済社会の展開』慶応通信、1973年。

(7) 横田冬彦、若尾政希らが、近年研究を進めている。

(8) 勝俣鎮夫『中世社会の基層をさぐる』山川出版社、2011年。

● みえてくる課題と展望：近世軍事国家のジェンダー配置？  
3つの変化が中近世移行期に起こったか？（なお説明が必要）

① 遊女屋が男性による経営へ

中世では、遊女は女性集団で、芸を売る面が次第に衰微していった。(9)

左：12世紀後半、貴族と遊女（「餓鬼草紙」国立国会図書館蔵）

右：16世紀、客を引く京都の遊女（歴博蔵「洛中洛外図屏風」）



『餓鬼草紙』,写. 国立国会図書館デジタルコレクション  
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2542610>



国立歴史民俗博物館ウェブサイト, 洛中洛外図屏風（歴博甲本）  
【仕事・しぐさ】, [https://www.rekihaku.ac.jp/education\\_research/gallery/webgallery/rakutyuu/theme/work02.html](https://www.rekihaku.ac.jp/education_research/gallery/webgallery/rakutyuu/theme/work02.html)

(9) 辻浩和『中世の「遊女」』京都大学学術出版会、2017年。

② 呉服屋が男性集団化：

【史料】 16世紀、京都の呉服屋店頭イメージ（東京国立博物館蔵「月次風俗図屏風」）



東京国立博物館,月次風俗図屏風  
[https://www.tnm.jp/modules/r\\_collection/index.php?controller=other\\_img&size=L&colid=A11090&img\\_id=19&t=type&id=11](https://www.tnm.jp/modules/r_collection/index.php?controller=other_img&size=L&colid=A11090&img_id=19&t=type&id=11)

③ 結婚・イエ形成・子孫のための労働、が広く定着（上述）。

“兵營国家”論<sup>(10)</sup>：近世社会は、長期にわたる軍事動員・集中を支える体制が前提。  
近世都市（城下町が基本）は、そのための軍事拠点として、人工的に設計されている。

日本近世は一見、イエ（単婚小家族）単位の小経営を基礎とする社会（高度経済成長期ごろから崩壊中）だが、巨視的にみると、政治・経済の拠点である都市はその構造に収まらない領域。政治権力の基本的な枠組み、経済上の同時代的な“合理性”、習俗・心性の“慣性”などにより、イエ形成から疎外された男女の集団が維持されていた。

近世の流通（+流通政策）の中核となり、近代にいたる巨大資本は、こうした近世社会の枠組みに立脚して、集中的に使役・管理できる有能な人員の集団・組織を維持し、家を繁栄させ、また国家・社会の大動脈を維持（→近代化の経済的・社会的基盤を形成）していた、か？

こうした制度・心性は、いかに変化して現代に至るのか（変化は重層的。心性の変化は遅い）。

(10) 高木昭作『日本近世国家史の研究』岩波書店、1990年。

## ・まとめにかえて—日本史学におけるジェンダーの展望

対象として：少なくとも歴史学では半永久の課題であろう。

方法として：多くの研究者の視角に内在化してゆくと、逆に意識されなくなってゆくか。現時点では、自身の視角を変えてみることで、見えなかった領域・つながりが見えてくる、歴史像が刷新されてゆく、歴史学の最先端にある。

## ・もう少し知りたい人のためのブックガイド

(展示図録)『性差(ジェンダー)の日本史』国立歴史民俗博物館, 2020年

: 図版豊富、大部だが見開き程度で完結するパートの連続。読みやすい。  
本講義の前提。

『国立歴史民俗博物館研究報告』第35集、共同研究「日本列島社会の歴史とジェンダー」  
2022年

: ハードな論文集。最先端の本格的な研究、本講義の具体例はここに。

(新書)国立歴史民俗博物館監修・「性差の日本史」展示プロジェクト編『性差(ジェンダー)の日本史』集英社インターナショナル、2021年

: 手軽にすぐ読むための簡易版。kindle版もあり。

久留島典子・長野ひろ子・長志珠絵編『歴史を読み替える—ジェンダーから見た日本史』  
大月書店、2015年

: ジェンダーの観点からみた日本史上の重大なトピックを各見開きで。参考文献も詳しく、個別のトピックを勉強してゆく入門に最適。

(新書)横山百合子『江戸東京の明治維新』岩波書店、2018年

: 表題通りの内容で、遊郭に1章をさく。女性史・ジェンダー史の視点をまじえることが、巨大なスケールの歴史像を描き出すさいにいかにも有効か、具体的によくわかる一冊。